名稱

〔類聚名物考人事七〕らんご　亂碁歟

思ふに、今も童子の戯に、亂碁とて白石のみにて打、四ッ目殺しといふことなす事有り、それをいふ歟、又は石なとりの事にて、石なごともいへば、言便になごをなんごともいへるにや、上總の俗、長柄郡の海に錦砂子有るを、女兒のともがらいしなごと云ふ、又はなんごともいへり、もしその事歟、されどもまづは亂碁なるべし、

〔槐記續編〕享保十七年十月十八日、滋野井入道殿（公澄）○仰ラレシハ、昔シ亂碁ト申コトアリタリ、ソレハイカヤウニ致スコトニヤ、梅輪内燈臺ナドノ類ニテ、源氏物語ナドニ、ミダレゴト云、連歌ナドニ能ツカフコト也、其法アリヤト申上ラル、仰ニ（近衛家熙）○後水尾院ノ御前ニテタビ〳〵アリタルコト也トテ、アソバシテ御ミセアソバス、コレヲメヤスランゴト云、先石ノ白黑ヲ一ツニマゼテ、碁盤ノ目ヲ四方ニヒトメノコシテ、ヒシト並ベテ、四方ノ角ニ白石二ツ、黑石二ツ、已上四ツヲ置テ、是ヲメヤストス、扨人五人カ七人カ並テ、丁ニスルハワロシ、ハンニスルガヨシ、ソノ石ヲ目ニ從テ横ニ走リテ、タトヘバ白石ナレバ、白石ノ縱ニ多クナラビタル處マデ、縱ノ白石ノツヾキタル石ダケヲトル也、又黑石ナレバ、ソノ次ニ横ニ走リテ、横ニ黑石ノツヾキタルダケヲトル也、ソレハ一度ハ白石、一度ハ黑石ヲツカフ也、人ガ五人カ七人カナレバ、同ジ人ガ一度ハ白、一度ハ黑ヲツカフニナリテヨシ、サナケレバ同ジ石ニアリテハ兼テアシ、ケ樣ニシテトリ〳〵シテユケバ、後ニハ皆ニナル也、中々ニ古風ニテ面白キワザ也、

〔鹽尻三十四〕一今俗彈碁（ハジキ）と亂碁と、するやうを云らざる多し、○（中略）らんごは、指につけて碁子ををして取り、多く得たるを勝とする也、

〔嬉遊笑覽四雜伎〕鹽尻に、亂碁は指につけて碁子を取、多く得たるを勝とする也、名物考に、今も童子の戯に、亂碁とて白石のみにて打、四ッ目殺しといふことをなす、それをいふかなどありて定か